

# 苗立ちの安定化に寄与する耐湿性大豆育種素材の開発

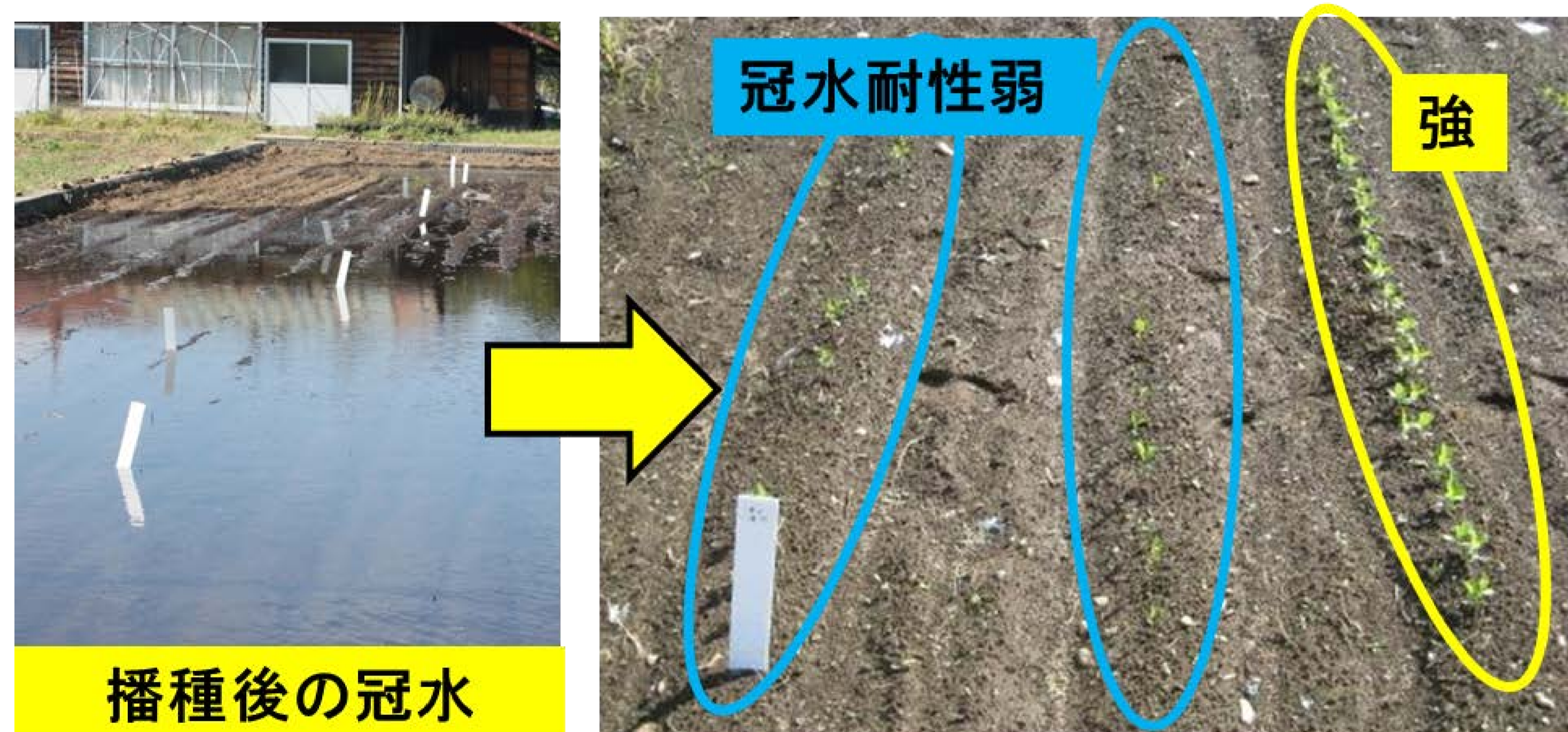
長野県野菜花き試験場



水田転換畑での作付けが多い大豆栽培では、播種から生育初期に降雨で湿害が発生しやすく、出芽・苗立ち不良が安定生産の障害となっています。そこで、播種時の急激な吸水で発芽力低下が起きにくい「ハヤヒカリ」の発芽時冠水耐性を主要品種に導入した耐湿性育種素材の開発を進めています。

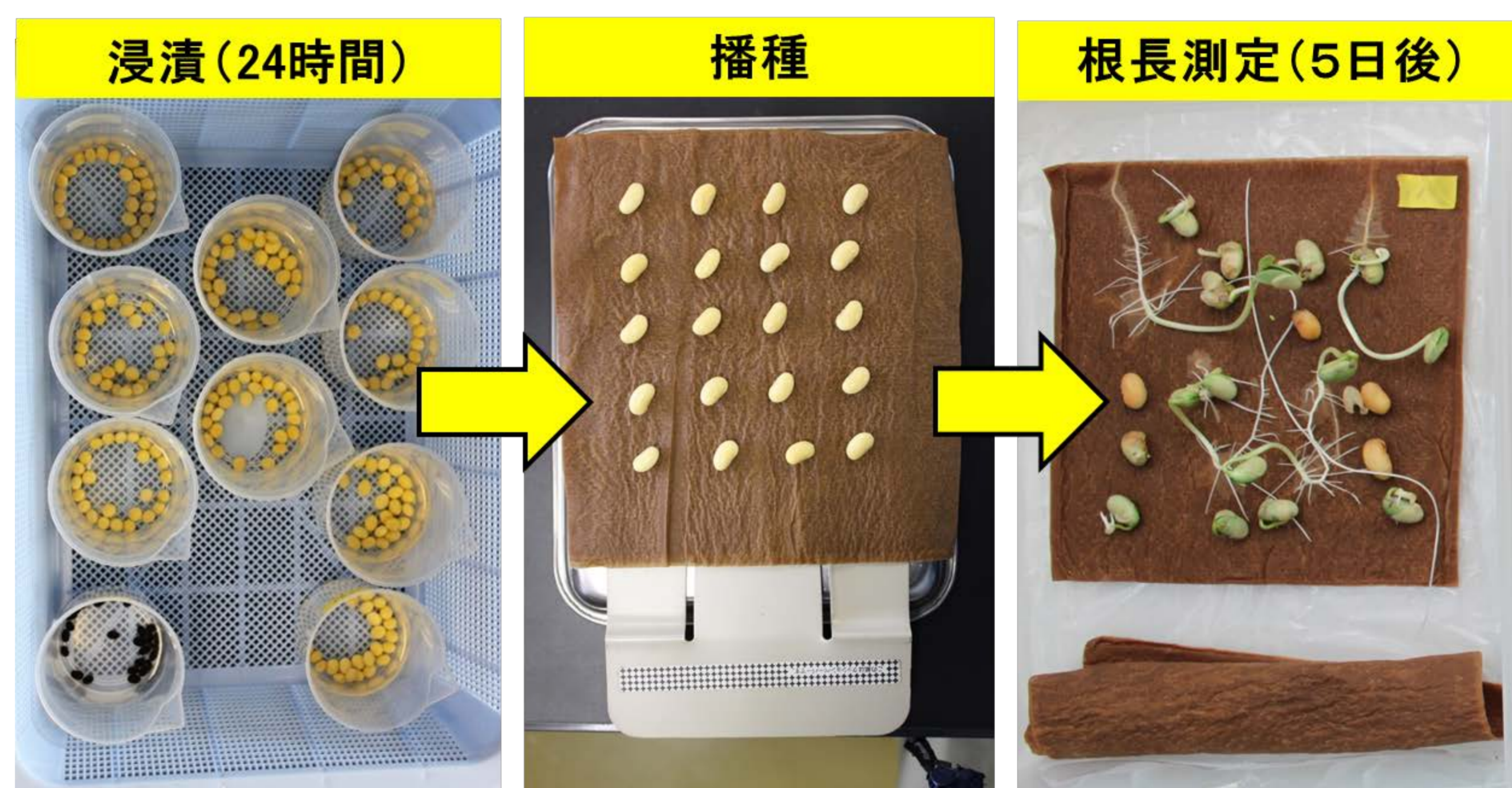
## 1 発芽時冠水耐性とは

- 大豆の種子は、播種後の大雨で急激に吸水すると、組織が崩壊して発芽力が低下することがあります。
- 「ハヤヒカリ」など種皮の透水が緩慢な品種は組織が崩壊しづらく、発芽が優れます。



## 2 冠水耐性の室内検定法

- 種子を水分9%まで乾燥させます。
- 25℃の水に24時間漬けます。
- 紙タオルに挟み、25℃で培養します。
- 5日後に根の長さで評価します。



## 3 耐湿性育種素材の開発



- 「ハヤヒカリ」の耐湿性を「エンレイ」や「フクユタカ」に導入するための戻し交配を進めています。
- 耐湿性に関する遺伝的領域の探索と選抜マーカーの開発に取り組んでいます。
- 茎疫病抵抗性など、他の耐湿性との複合化も図っています。

### ● 普及・社会実装への道筋

- 耐湿性を導入した育種素材は、現地で実用性を評価します。
- 中間母本として全国で活用します。